

桔梗の子どもを伸ばす

家庭学習の手引き

～自ら進んで学ぶ子どもを育てるために～

塩尻市立桔梗小学校



小学校の学習は、将来自立して生きていくための基礎となるものです。とくに「読むこと」「話すこと」「書くこと」「計算すること」などは、社会人として自立する基礎となる欠かせることのできない「生きるための力」です。

本校は、1時間1時間の授業のねらいを明確にして学習を進め、子どもたちの学ぶ力の向上と基礎学力の育成に努めています。また、様々な機会をとらえ、自ら学ぶことができる児童の育成を心がけています。しかし、学校でつけた力を確実なものにし、さらなる力として発揮できるようにするためには、家庭と連携した「家庭学習の習慣化」が不可欠です。

そこで、家庭での学習をお子さんと一緒に考え、見直していくための参考資料として、おうちの方向けの「家庭学習の手引き」を作成しました。ご家庭の事情やお子さんの実態に合わせながら、家での学習の約束を話し合う際や支援・声かけのしかたの参考として、ぜひ活用してください。

1 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。家庭学習によって、次のような教育的効果が期待できます。

① 学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。学校で「わかった」ことが、反復練習によって「できる」という自信に変わっていきます。

② 脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日くり返し使うことで活発にはたらくようになるのです。鍛えれば鍛えるほど発達し、たくましくなって、脳がいろいろなことにうまく使えるようになります。小学生のうちからどんどん脳を鍛えましょう。

③ 学ぶ習慣をつける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身につきます。毎日続けることで、やがてあたり前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習することが大切です。

④ がまん強さ・根気・集中力をつける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ・根気・集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて、学習や読書等の時間をつくり出し、しっかりと確保したいものです。そのためには、テレビを消す、みんなで読書をする、といった家族全員の協力が必要なのは言うまでもありません。

⑤ 家族のふれあい

「本を読んでいるとき、横で聞いてあげる」「勉強がわからないとき、教えたり調べたりしてあげる」など、家庭学習をしている子どもに親が関わることにより、コミュニケーションがはかれます。家族のふれあいの機会が増えることは、子どもの精神的な安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

また、学校からのおたよりやプリントに目を通し、学校の様子やお子さんの学習の様子に関心をもつことも大切です。



家庭学習のポイント（保護者の皆様へお願い）

以下の点は、家庭学習を実りあるものにするためにとても大切です。参考にいただき、ご協力をお願いします。

① 毎日決まった時間に

家庭学習を習慣化することは、小学校のみならず、中学校でも大切になります。帰宅後のいつ家庭学習をするのか決め、その時間にやるようにしましょう。

② 宿題を先に、そして自主学習を

家庭学習では、先に宿題を行いましょう。そして、時間や余裕がある場合は自主学習に取り組み、家庭学習を充実させましょう。

③ 始めたら最後まで（学年×15分）

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。「学年×15分」をおおよその目安にして、最後まで他のことをせずに集中してがんばることを心がけてください。

④ 静かな集中できる環境で

気が散る物が近くにあったりテレビの音が聞こえるような環境では、集中しているつもりでも学習したことがきちんと頭に入っていません。見たい番組があるときは録画するなどして工夫しましょう。

⑤ 整頓された場所で、よい姿勢で

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習するようにしましょう。自分の机ではなく居間での学習もOKですが、テレビなどは必ず消しましょう。

⑥ 子どものがんばりを認め、ほめて励ます

親や教師が子どものがんばりを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき、進んで学習しようとする意欲が高まります。間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。



⑦ 学力アップは規則正しい生活から

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、諸調査でも明らかになっています。

3 家庭学習の方法

- (1) 担任から出る「宿題」を最初に取り組みせましょう。
- (2) さらに自主学習例を参考に、自主的な学習に取り組みせましょう。(高学年は自分で内容を考えるのもよいでしょう)
- (3) どうしても勉強に飽きてしまうときは、読書やお絵かきなどで、必ず机に向かわせるようにしてください。「机に向かう」という習慣が大切です。
- (4) 勉強が終わったら、翌日の準備をさせましょう。鉛筆をけずり、準備物をしっかりと整え、明日の学習予定をしっかりと頭に入れ、明日の見通しをもたせましょう。



【自主学習 参考例】

*宿題として出される内容も含まれています

国 語	算 数	社会・理科など
- 漢字練習（ドリルの活用） - 熟語練習（ドリル・辞書の活用） - 意味調べ（辞書の活用） - 日記 - 音読 - 視写 - テストのやり直し	- 計算練習（ドリルの活用） - 教科書の問題 - 百マス計算 - テストのやり直し	- 学習した内容や関連した興味のある内容を、本やインターネット等の資料で調べる。 - 授業で学習したことをノートにまとめ直す。
日常生活	- 読書をしましょう。見えない学力を高めます。 - 国語辞典、漢字辞典、図鑑などを身近に置いて調べましょう。 - 日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べましょう。 - 小学生新聞など、新聞に目を通してみましょう。 - ニュース番組を親子で見ても話し合みましょう。 - 自然事象や生き物とふれあい、観察してみましょう。 - 詩や短歌、百人一首などの暗唱をしましょう。 - 余裕があれば、市販のドリルや問題集にも取り組んでみましょう。 - 将棋や囲碁、数独など頭を使うゲームをしましょう。 - 家の仕事進んでやりましょう。	



4 各学年の家庭学習について

保護者としての関わり方や各学年の学習の重点箇所などについてまとめました。各学年の子どもたちの発達段階に応じてご活用ください。

